

「こおりやまの米」通信



令和5年4月

編集：郡山市

JA福島さくら郡山統括センター (TEL. 024-921-0503)

NOSAI福島 中央支所 (TEL. 024-933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 024-935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会

(郡山市園芸畜産振興課 TEL.024-924-3761)

毎月8日は「こおりやま「お米の日」」

豊かな自然と気候に恵まれた、県内一のお米
どころである郡山の美味しいお米をたべましょう！

Vol. 2 育苗管理～本田準備・田植

* 過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。

こおりやまの米通信

検索



1 育苗管理 ～健苗育成に努めましょう～

【温度管理】

育苗時の温度管理は表1のとおりです。ハウス内に温度計を設置し、こまめなハウスの開閉により温度管理に努めましょう。ハウスを開放しても高温になる場合は、寒冷紗等で日差しを調整しましょう。

できるだけ外気と日光に当てるようにしますが、高温、過湿、強風や夜間の低温には十分注意しましょう。

表1 生育ステージと目標温度の目安

生育ステージ	日中(°C)	夜間(°C)
第1葉展開まで	25	10～15
第1葉展開後から硬化期	20	10～15

【かん水】

原則は1日1回、朝にたっぷりとかん水します。追加のかん水が必要な場合は昼頃に行い、夕方のかん水は根張りが悪くなるので注意してください。

2 プール育苗

プール育苗の苗は、水の保温効果により徒長しやすいため、以下の点に注意して取り組んでください。

○緑化後はハウスサイドは夜間開放を基本とし、苗が伸びすぎないようにしましょう。

○入水開始は第2葉が伸びる時期とし、培土表面より下の高さまで入水します(苗の水没には特に注意)。その後、プールの底が出る前または出たらすぐに入水し、水位は苗の生育に応じて、最終的に培土が覆われる程度とします。培土中の水分が減少すると、苗立枯病等が発生しやすくなるので注意してください。

トラクター・田植機での農作業の後、水田から公道に出る際には、機械についた泥などを落としてから走行するように、お願いします。

道路に落ちた大きな泥のかたまりは、通行の妨げになり、滑りやすく交通事故の原因にもなり、大変危険です。

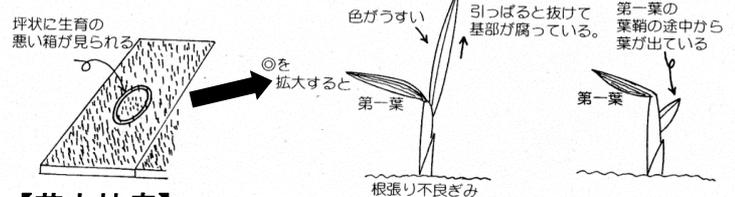
3 育苗中の病気 ～マメな温度管理が予防のポイント～

【もみ枯細菌病】

○症状は、1.5～2葉期に急に現れます。坪状に枯れ、第2葉を引っ張ると簡単に抜けます。新葉の付け根が白くなることも多くみられます。

○対策は、温度管理(28°C以下)です。発病後に対処できる農薬はありません。罹病した苗箱は健全な苗への感染を防止するため、直ちに廃棄してください。

症状(1葉期を過ぎた頃)



【苗立枯病】

○苗立枯病が発生したら、下記(表2)の薬剤を使用し防除を行ってください。

○発生が著しい苗箱は欠株の原因となるため、使用を控え処分してください。

【ムレ苗】

○低温とピシウム菌により坪状に発生し、初期は日中だけ葉が巻き、最終的には夜間も葉が巻き枯死します。

○発生後に対処できる農薬はなく、枯死する前の移植で回復するので、移植時期を早めましょう。

表2 播種後に使用できる農薬

病原菌	症状	ナエファインプロアブル*1	ダコニー ル1000*2	ダコレート 水和剤 *2	タチガレエースM液剤*3
リゾプス	白いカビ		○	○	
苗フザリウム	白～ピンクのカビ			○	○
立枯病	カビは見えない ピシウム ドーナツ状に枯れる	○			○
	トリコデルマ			○	

※1: 播種時～緑化期 ※2: 播種時～緑化期(但し、播種14日後まで)

※3: 播種時又は発芽後

4 本田準備 ～今年の出来はここで決まる！～

○不順天候に負けない稲体を作るため、耕深は15cm以上を確保しましょう。

○土壌分析結果でリン酸、加里が十分にある場合は、低コストのL型(低PK)肥料を積極的に活用しましょう。

全量削減の目安

リン酸:30mg/乾土100g以上

カリ:50mg/乾土100g以上



「肥料コスト低減に向けた技術マニュアル」 ↑

○被覆肥料のプラスチック皮膜殻や稲わら等の河川等への流入防止のため、「浅水代かき」を行いましょ。

○表層はく離は水持ちの良いほ場で発生が増えます。耕起や代かきが過剰にならないよう注意してください。

5 田植え ～健苗を風のない暖かい日に移植しましょう～

低温時や強風時の移植は植え傷みが生じるので、移植は風のない天気の良い日に行いましょう。

○植付け株数

・「ふくひびき」で多収を狙う場合、疎植を避け60～70株/坪としましょう。

○植え付け本数

・植え付け本数は1株当たり4本程度にします。

○植え付け深さ

・苗が転ばない程度に浅く植えましょう。深植すると下位分げつが発生しにくく生育が遅れます。

○補植

・1株の欠株ではほとんど減収しないため、欠株が連続している所だけ補植します。また、初中期一発除草剤の散布前に終了しましょう。

・置き苗は、いもち病の発生源になるので、補植が終わったら、すみやかに処分しましょう



6 本田初期の水管理 ～初期生育の確保のために～

田植え後、活着までの3～5日は苗が水没しない程度の深水管理にしましょう。

○活着後は水深3cm程度の浅水管理とし、分げつの発生を促進しましょう

たき火が原因の火災が多発しています
田畑においてたき火を行う場合も、
周辺環境に配慮するとともに、
消防署まで届けましょう



7 育苗箱施用剤による病害虫対策

○斑点米カメムシ類

出穂後の本田で粉剤等の散布剤を散布できない場合、カメムシ類に登録のある育苗箱施用剤(ゴウケツバスター箱粒剤等)があります。

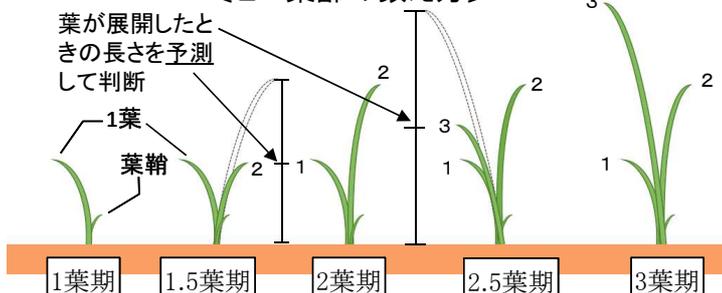
○紋枯病

前年に紋枯病が発生したほ場ではより発生しやすくなります。また、過繁茂で多発するため、窒素肥料の多用を避けましょう。紋枯病に登録のある育苗箱施用剤(ブーンレパード箱粒剤等)があります。

8 雑草防除 ～農薬の使用時はラベルを確認～

雑草の種類と葉齢にあわせて、除草剤を選択しましょう。

〔ヒエ葉齢の数え方〕



雑草の出葉は気温の影響を受け、高温が続く場合には、ヒエは3日程度で1枚出葉します。移植前後が高温の場合は、除草剤の散布が遅れないように特に注意してください。

なお、除草剤は農薬登録の範囲内で使用してください。

○除草剤使用のポイント

- ・代かきの均平を心がけてください。
- ・散布時は7日間止水できる水深を確保してください。
- ・水口、水尻は、しっかり止水してください。
- ・7日間水が維持できないほ場では、途中で処理層を破壊しないようにゆっくり入水してください。
- ・除草剤散布後7日間は落水しないでください。
- ・フロアブル剤やジャンボ剤等の水面を拡散して作用する剤は、表層はく離等が多い場合、拡散できず効果が低下することがあります。事前に表層はく離等に対応するか、影響を受けにくい粒剤に変更してください。

○表層はく離対策

- ・表層はく離に効果のある初期剤や初中期一発剤は、表層はく離が発生する前の使用が効果的です。
- ・発生時には、こまめに水を入れ替え、発生が著しい場合は、2～3日間落水するようにしてください。